

中期目標に掲げる基本目標

中期計画の概要

2012年度 年度計画の概要

研究・教育の質の向上に関する目標を達成するための措置

国際的に通用する人材の育成

神戸市外国語大学の特色である少人数による密度の高い語学教育と文化・歴史から社会・経済にわたる幅広い教養教育を更に充実させるとともに、質の高いコミュニケーション能力と情報リテラシー(情報を使いこなす能力)を備え、国際社会において自らの見識に基づいて行動できる人材を育成する。



1 国際的に通用する人材の育成

●国際的な知識と柔軟な判断力を持つ「行動する国際人」の養成を本学の教育基本理念として定め、それぞれの言語の特性とその背後に広がる文化にも通じた「洗練された外国語能力」が獲得できる新しいカリキュラムを構築する。(2009 新カリキュラム実施)

(1) 複数外国語を使える高い語学力の育成

- 専攻・兼修語学の少人数化(2008以降順次実施)
- 専攻語学以外の言語の充実(2009 ドイツ語・兼修フランス語の充実 など)

(2) 国際コミュニケーション能力の強化

- 言語コミュニケーションの理論と実践に焦点を絞り、会議通訳者などのスペシャリストを育成する国際コミュニケーション特別コースを設置(2009 コース設置、2011 TOEFL(iBT)102=TOEIC900以上)
- 学部から修士課程まで一貫したカリキュラム、ダブルマスター制度を検討(2012 検討)

(3) 情報化社会への対応

- 情報の集積・共有化を図るとともに、教室環境や情報基盤ネットワークなどを再編、最適化(2012 5人/PC1台)
- 学生の情報リテラシーを高め、教育工学分野等の人材育成を図るため、関連カリキュラム等を充実(2012 経済産業省標準のITスキル達成)

(4) 学生アメニティの拡充

- 学生数増加等に伴う施設拡充(2007 学生会館増築、2008図書館増築、2009以降トイレ改修など順次実施)
- 施設保全計画に基づく計画的な補修(2007以降順次実施)

(5) 学生への生活支援と進路・就職支援

- キャリア形成のための講座を充実強化(2007以降順次実施)、卒業生と学生・教員のネットワーク構築を同窓会等の支援も得て実施(2010実施)
- 学生ニーズの的確な把握システムを整備し、個別ニーズに応じた相談体制の整備(2007以降順次実施)

新規

新規

- 新カリキュラムの全学年移行(語学授業の少人数クラス化や新カリキュラム実施上の課題点への対応等)
- 教育理念を効果的に達成するための新入生への初年次教育の導入(教育課程外)
- 授業評価アンケートその他新たなFDの取組の調査・検討(各教員の授業の充実改善)
- 中期的な視点からの各学科コースの運営状況の総合的な検証の継続

拡充

- 語学授業クラスの少人数化を全学年に適用
- 外国語等の修得に意欲のある優秀な学生の確保の推進
- CALL教室等を有する情報メディア教室やeラーニング(英語学習)の今後当面の更新方針の検討(語学授業の環境充実)

新規

新規

新規

- 学部国際コミュニケーションコースの成果の一つとして、第1期コース修了者(2012年3月卒業)のTOEICスコア(平均900以上)や就職実績のPR
- より高度な英語運用能力を培った大学院生の育成(通訳翻訳学領域の新設)
- ダブルマスター制度の導入を視野に入れた海外の大学院等との協議の継続

- 無線LAN環境の試行導入(研究教育環境の充実)
- リポジトリ(学術論文等を保存、公開する電子システム)の構築及び試行運用
- 学生の情報リテラシー確保のための学生の図書館利用の促進策などの実施

拡充

- 計画的な老朽改修の推進(個人研究棟の外壁改修等)
- 学生の交流や自習のためのスペースの確保策などの対応検討

- 企業の採用時期等の動向把握と3・4年生や海外留学予定者への適切な情報提供
 - キャリアデザイン科目(2年目)や全学生へのTOEICスコアアップ支援の実施
- 拡充
- 就職支援活動における卒業生や同窓会との連携強化
 - 教職員やカウンセラーによる適切な相談支援と休学、退学者数等の把握の継続

中期目標に掲げる基本目標

中期計画の概要

2012年度 年度計画の概要

高度な研究・教育の推進

高度な語学力によって海外の最新情報を収集し、紹介することと並み、その背後にある歴史・社会・文化の分析と比較を通して新たな知見を開拓し、その研究成果を国内外に広く発信する「発信型」の研究拠点へと変革していく。

また、教員の活発な研究活動と学外・海外の研究者との交流の中で、修士課程・博士課程の院生を国際的に通用する研究者として育成していく。



2 高度な研究・教育の推進体制

(1) 外国学の研究拠点と研究成果の発信

- 可能な限り多くの教員が申請に参加し科学研究費補助金のさらなる獲得 (2012 新規申請数 24件、獲得件数(新規・継続) 30件)
- アジア言語やヨーロッパ文化など高い水準の研究スタッフを組織化し、大学独自の研究プロジェクトを実施(2010 プロジェクト開始)
- フランス科学院(CNRS)アジア部門、ブータン研究センターとの提携を検討するとともに、ロシア・中国・イスパニア・オーストラリア等の研究機関との提携も模索する。(2007以降順次検討・実施)

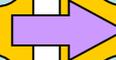
(2) 研究と教育をリンクさせた大学院教育

- より魅力のある大学院づくりを行うため、カリキュラム全体の見直しを行う。(2012 院生が海外の学会発表実施)
- 特色GPの成果の反映及びリカレント・プログラムの特殊性を考慮し、学生満足度の向上を目指す。(学生満足度の充実 2012まで順次実施)
- 院生に海外で研究する機会を提供するため、海外の大学院との提携や院生の派遣を行う。(2007以降順次実施)

新規

- 科学研究費その他の外部資金の申請支援等による獲得実績の維持・向上
- 2つの国際会議の開催(大学独自の研究プロジェクトの推進)
 - ・第3回若手チベット学研究者国際会議
 - ・第2回国際セミナー(バスク大学(スペイン)と共催)
 - ・大学の研究業績のWEB上での情報発信強化(リポジトリの試行運用開始)
- 海外の研究機関との学術提携の推進

参考 2007年度 : フランス国立高等教育院(フランス)
 2008年度 : ブータン国立ブータン研究センター(ブータン)
 2009年度 : オーストリア学術アカデミー・アジア文化研究所(オーストリア)
 2010年度 : ポーランド学術アカデミー(ポーランド)
 2011年度 : 青海民族大学外国語学院(中国)



拡充 ●大学院教育の新たな理念(2010年度策定)に基づくカリキュラム等の見直しの推進 (研究者養成に加え、多様なキャリアを目指す院生や社会人、留学生の受入促進)

- 大学院生の研究活動の支援(海外で研究発表等を行う院生への助成等)
- 大学院入学を目指す留学生に研究指導を行う外国人研究生制度の見直しの検討
- 国内外の大学院との連携推進
 - ・東京外国語大学との連携協力協定に基づく第3回共同セミナーの開催
 - ・天津外国語大学(中国)とのダブルマスター制度の実施
 - ・その他の海外の大学院との提携先の開拓

中期目標に掲げる基本目標

中期計画の概要

2012年度 年度計画の概要

地域貢献

神戸市や地元企業などと連携して、神戸市外国語大学が持つ知的資源を様々な形で地域社会に提供し、文化面・社会面・経済面での活性化を図っていくとともに、神戸市の教育拠点としての役割を担っていく。



3 地域貢献

(1) 社会人を対象にした教育の充実

- 地域社会の知的需要に対応するため、特定のテーマを系統的に学べる社会人向け講座を新設。(2008 一部実施)
- その他のさまざまな方策について検討(2007 検討体制の構築)
- 第2部の定員削減と新コース設置等を考慮した学部定員の増加(2009 実施)

(2) 神戸市の教育拠点としての役割の充実

- 小学校教員を対象に英語教授法などの研修を実施(2009 実施)
- 小・中・高等学校へセミナーや出前授業を実施(2008 実施)
- 商工会議所等で実施する講座などに、本学教員を講師として派遣(2008 実施)

(3) 推薦入学制度の拡充

- 推薦入学枠の拡大など制度拡充(2009 実施)

(4) 神戸市教育委員会との連携

- 全学的な「連携協議会(仮称)」を設置(2007 実施)
- スクールサポーター制度や学校インターンシップ制度への対応を充実するためプロジェクトチームを設置(2008 設置)
- 小学校での英語活動に貢献できる人材を育成、教育実習等への支援体制を構築(2008 支援体制の充実)

(5) ボランティア活動の支援体制の充実

- ボランティアコーナーの支援・啓発を充実・実施(2007以降順次実施)

新規

- 市民の多様な受講ニーズへの対応促進
- オープン・セミナーの開講(市民ニーズに対応して新たに学外でも開講)
- 科目等履修生制度の見直し検討(長期継続利用などのニーズへの対応)
- 市民向け講演会の定期的な開催
- 図書館市民利用制度の拡充の試行実施

- 小学校教員への「小学校外国語活動基本研修」の実施
- 地域の小中高校の現職教員の参加を受け入れる「オープンクラス」事業(2回目)の実施
- 小中高生と本学学生等の多様な交流事業の開催
- 地元企業が行う地域貢献事業への参画や支援の検討

- 本学への進学を目指す優秀な地元学生の受入の継続

- 連携協力協定に基づく「アクションプラン(2009年度策定)」の推進
- 拡充 ● 教職志望学生への総合的な支援の拠点となるスペース設置の検討
- 小学校教員免許の取得者及び採用者を継続的に確保するための支援の実施
- 教職志望学生が教育現場にボランティアとして出向くスクールサポーター、イングリッシュサポーター事業への積極的な参加の促進

- 東日本大震災の被災地ボランティア活動の継続
- 教育課程内でのボランティア活動の実施と、参加者数が増加を続ける学生主体のボランティア活動のさらなる支援及び啓発

中期目標に掲げる基本目標

中期計画の概要

2012年度 年度計画の概要

国際交流

留学生や教員・研究者の受入れと派遣などにより教育・研究における国際交流を推進していく。

また、外国語大学の特色と知的資源を活用して、神戸市や地元企業などが政治面・経済面・文化面において行う国際交流を支援する体制を整えていく。



4 国際交流

(1) 国際交流部門の組織的基盤の確立

- 国際交流センターの体制・機能のさらなる充実 (2007以降順次検討・実施)

(2) 留学支援体制の充実

- 交換留学生(短期)の受入をさらに充実するために「日本語教育プログラム」を実施(2008 実施)(2012年度の目標受講生数10人)
- 外国人留学生の生活支援のため「留学生生活支援ボランティア」を組織化する。
- 公費派遣留学制度の充実(2012 交換・派遣留学生の増加)

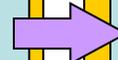
(3) 海外の研究教育機関との連携の拡充

- 海外研究機関からの教員の受入拡充(2012 実施)

(4) 神戸市および地元企業との国際交流支援

- 姉妹都市交流など様々な国際交流を支援(2008 実施)
- 学生・院生からボランティアグループの組織化(2008 実施)

新規



- 留学を目指す学生や留学経験学生、外国人留学生、ALTなどが交流する異文化交流活動の活発な実施
- 派遣留学制度の拡充等に伴い増加する業務の効率化や学生サービスの向上

- 外国人留学生の受け入れ
 - ・「日本語プログラム」における海外の提携大学等から留学生の受け入れ
 - ・留学生と学生の授業内外における交流の促進
- 本学生の海外留学支援
 - ・短期派遣留学制度における全語学科での派遣先確保の達成 (新たに北京語言大学(中国)を開始予定)

拡充・長期留学生への支援充実として、新たな交換留学等の提携先の確保
参考 2011年度末現在、8か国26の海外の大学等と交換・交流提携を締結

拡充 ● ロシア、中国、スペインからの交換教員の受け入れの継続
(このうち中国については新たに東北師範大学からの交換教員を受入予定)

新規

- 新たに国際関係学科におけるアメリカ(オーガスタナ大学)からの交換教員の受入(学生に英語による授業や講演を受ける機会を提供する)

- 神戸市や地元の国際交流団体からの異文化交流事業への参加要請などに対する学生の通訳ボランティア等の派遣

中期目標に掲げる基本目標

中期計画の概要

2012年度 年度計画の概要

柔軟で機動的な大学運営

理事長兼学長の適切な運営の下に学外からの意見も積極的に採り入れ、時代と社会の変化に迅速に対応し、自律的で効率的な大学運営を行う。



業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

1 運営体制の改善

- 自律的・効率的な大学運営(2007 理事会設置、委員会再編)
- 迅速で戦略的な意思決定制度(2007 理事補佐、経営企画室設置など)
- 学外との情報の受発信(2007 既存広報媒体の見直し・充実)

2 人事の適正化

- 雇用形態の多様化(2007以降順次実施)
- 業績評価システムの導入(2007以降順次実施)
- 人材育成の推進を図る。特に事務職員に対し大学業務の高度化・専門化へ対応するために、研修等を実施(2007 研修計画策定)
- 意欲向上に適した手当の見直し など

3 事務などの効率化・合理化

- 専門職員を順次配置し、サービスの質を向上(2007以降順次実施)
- 事務組織・執行体制の見直し(2007 実施)
- 事務処理の簡素化・効率化(2007 実施)

財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

1 外部研究資金その他の自己収入の確保

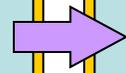
- 学生納付金の定期的な見直し・適正化の検討実施(2007 順次実施)
- 大型科学技術研究費など外部研究資金の獲得
- 多様な自己財源の確保(2007 順次検討実施)

2 経費の抑制

- 総人件費の抑制及び管理運営コストの削減(2007 管理運営業務の総点検 など)
- 戦略的な予算配分が行える仕組みを構築

3 資産の運用管理の改善

- 学舎等老朽施設・設備の計画的な改修(2007 順次実施)
- AV教室等学内ネットワークの整備(2012 AV教室利用率65%)
- 資産の積極的活用と適正な利用料の設定(2007 利用金再設定)



● 大学運営

- ・任期満了に伴う理事の選考手続きの適正な実施

- ・第2期中期計画の策定及び事業推進に必要な運営体制の整備(大学院審議体制等)

● 積極的な情報発信

- ・受験者向けの情報発信の強化

新規

- 新たに大学広報に関する動画のホームページ上への掲載開始

拡充

- 対象地域の広域化(西日本や首都圏などの進学ガイダンス参加等)

来場者が年々増加するオープンキャンパスや高校の大学訪問への円滑な対応

新規

- 大学ロゴの作成(大学イメージの発信)

拡充

- 卒業生向け広報の充実

● 人事、人材育成

- ・各専門分野で研究業績の優れた教員の計画的な採用、客員教員等の採用
- ・市派遣職員の計画的な引揚げと、固有職員の採用と人材育成事業の充実

● 事務などの効率化・合理化

- ・事務改善等の推進

● 外部研究資金その他の自己収入の確保

- ・学生納付金の点検や外部研究資金の確保、その他寄附金、施設貸付使用料、市民講座の受講料など、多様な財源の確保

● 経費の抑制

- ・総人件費の抑制、管理運営コストの節減

● 資産の運用管理の改善

- ・老朽施設・設備の計画的な改修
- ・情報メディア教室の今後当面の更新方針の検討
- ・大学施設の積極的活用として、語学試験等の利用促進や料金設定の点検
- ・学内の教育研究活動の新たな空間需要への効率的な活用推進

中期目標に掲げる基本目標

中期計画の概要

2012年度 年度計画の概要

柔軟で機動的な大学運営

理事長兼学長の適切な運営の下に学外からの意見も積極的に採り入れ、時代と社会の変化に迅速に対応し、自律的で効率的な大学運営を行う。

点検及び評価並びに情報の提供に関する目標を達成するための措置

1 評価の充実

- 理事長直属の委員会を設置し、中期計画・年度計画の達成度等进行评估(2007 委員会設置)

- 評価結果の公表

2 積極的な情報公開

- 説明責任を果たすため、法人業務運営状況を公開(2007 順次実施)

その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

- 環境マネジメント活動を継続(2007 継続実施)
- 災害等に対する危機管理体制を確立(2007 マニュアルの策定)
- 適切な情報管理(2007 情報管理体制の整備)
- 法令順守
- 内部統制機能の確保(2007 内部統制システムの構築)

新規

●評価の充実

- ・第1期中期計画の達成状況についての自己点検評価の実施
- ・学校教育法に基づく大学認証評価結果(2010年度受審)への事後対応の継続

●積極的な情報公開

- ・教育情報の公表や法人運営情報の公開

●地球環境負荷の低減の取組推進(KEMSステップ2の認証取得の継続)

- 安全衛生管理の推進(教職員や学生への保健支援、分煙推進、安全点検等)
- 危機管理マニュアルの適切な運用(防火・防災訓練の実施等)
- 適切な情報管理の実施(構成管理システムの運用の徹底等)
- 法令遵守の教職員への啓発や研修(コンプライアンス推進委員会の活動継続等)
- 内部監査室による内部統制(個別業務の検証評価等)